

令和4年度

自己評価

川村中学校・川村高等学校

川 村 小 学 校

川 村 幼 稚 園

令和4年度 自己評価

川村中学校・高等学校

1 教育目標

豊かな感性と品格
自覚と責任
優しさと思いやり

2 本年度の重点目標

- (1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践
- (2) 三位一体の教育を実践
- (3) 中高6年間を見通した教育の実践
- (4) 一人一人を生かす教育の実践
- (5) 進路を見据えた教育の実践

3 評価表

* 評価基準 (A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 建学の精神・教育方針 ・ 校務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	B	成果：組織が活きて働く仕事分担となっている。 課題：学校経営計画の紙面の作成をして、計画に基づき実施していく。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 授業改善への取り組み ・ 研究会への参加	B	成果：教員一人一人がオンライン授業への研鑽を積むことができた。 課題：研修会への周知はされているが、参加状況は芳しくなかった。
	③保健・健康管理	・ 保健、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：危機意識をもって保健指導が成された。 課題：新型コロナウイルス感染症への予防対策に注意を払い、安全点検に甘んずることなく、今後も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理については良好であった。管理および行き届いた施設管理ができた。 課題：施設管理については、メンテナンスを必要とする箇所がいくつかあり、引き続き改善を図っていく。
	⑤一貫教育	・ 学校公開の実施 ・ 学校情報の発信 ・ 小中高の連携	B	成果：ホームページ等を通して情報の発信をすることができた。 課題：小学校との連携としてクラブ活動の見学・体験を行った。算数セミナーについては、継続して開講することができた。引き続き、連携を図るべく検討していく。
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・ 教育目標の周知 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価	B	成果：教育目標に基づき、教員一人一人が意識をして取り組んでいる。 課題：日々の学校生活の中で、生徒に自覚を促すよう工夫を凝らして指導する。
	②教科指導	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 評価、評定の工夫	A	成果：各教科で話し合いながら、オンライン授業の充実を図った。 課題：新しい教材やICTを活用して、深い学びとなるようにしていく。また、評価方法については引き続き検討・改善をしていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	③道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・生徒会活動	A	成果：コロナ禍、生徒の主体的な活動、および能動的に行動する姿勢を支援した。 課題：行事だけではなく、学校生活全般を活性化させるための主体的な活動を考えさせ、実践させていく。
	④総合的な時間の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善	A	成果：学年毎のテーマに基づき、豊かな発想を導きプレゼンテーション力をつける指導ができた。 課題：個々が問題意識を持って深い学びができるよう指導する。
	⑤生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談	A	成果：学年会を通して、生徒一人一人への共通理解をして迅速な対応と指導ができた。 課題：生徒の問題に対する共通理解と寄り添った指導の充実を一層図るよう努める。
Ⅲ その他	①三位一体の教育	・保護者との連携 ・生徒理解 ・コミュニケーション	B	成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人一人への指導ができた。 課題：指導に対する保護者への理解を図り、スピーディーな対応をしていく。
	②キャリア教育	・指導計画の立案 ・中学3年生の実践 ・高校1年生の実践	B	成果：中3と高1では、系統立てたキャリア教育を実践し、外部講師を招いて講演会を行った。 課題：一貫校としての進路指導の充実および高校生の進路指導の充実を図っていく。
	③防災教育	・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム	A	成果：様々な想定に基づく訓練を、コロナ禍において改善しながら実施することができた。 課題：危機意識を持った訓練となるよう工夫をする。
	④学校給食（会食）	・安全安心への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対応と新型コロナウイルス感染症予防への対応が丁寧にかつ正確に行われた。 課題：配膳時を含めた会食指導への更なる充実を図っていく。
	⑤鶴友会活動（部活動）	・クラブ活動の運営 ・クラブ活動の指導 ・クラブ合宿	B	成果：コロナ禍においても生徒の主体的なクラブ活動が行なわれていた。 課題：外部指導者による技術指導によりクラブ活動の充実を図ると共に活動日数や引率の適正化のもと教員の負担を軽減していく。
	⑥鶴友会活動（諸係り）	・諸係りの運営 ・活動内容の充実 ・活動内容の改善	C	成果：仕事内容についての分担化を図って活動をしていた。 課題：諸係の各部会や各リーダー会の実施により主体的な活動を指導する。

4 総合評価

- * 教員全員が共通認識をもって各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- * 新型コロナウイルス感染症に対する啓蒙指導が成され、安全・安心な学校生活を送ることができた。
- * 教員の共通理解のもと、改善を図りながら生徒の主体的な取り組みを支援することができた。
- * 三位一体の教育を実践することができた。

5 来年度への改善策

- * 新指導要領について、情報の収集と研修・研鑽を積み、さらに内容の充実に取り組む。
- * 授業の充実を図るため、授業改善を意識して研修と研鑽を積極的に行う。
- * 小中高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- * 一人一人の生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。
- * 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動を支援する。
- * 一貫校としての進路指導および高等学校の進路指導の充実を図る。
- * 新型コロナウイルス感染症拡大に伴うオンラインによる授業を実施してきたが、今後もIT機器を活用した授業の充実および教員一人一人のスキルアップを図っていくことにより、多様な学び方を通して、生徒一人一人の学力の助長を図っていく。
- * 教員の意識向上をさらに図り、周囲の状況を鑑みながら、各自の職務を遂行していく。

令和4年度 自己評価

川村小学校

1 教育目標

- 生き生きとした子（やさしい心）
- 健やかな子（じょうぶな体）
- 自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

2 本年度の重点

3本柱の構築

- (1) 英語教育（実用英語技能検定奨励）
- (2) 水泳指導（6年間の目標設定）
- (3) 情報教育（4年生iPad導入）

3 評価表

* 評価基準（A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神・教育方針 ・ 校務分掌組織 ・ 職員会議等の運営 	B	成果：各々の仕事分担を分かりやすいものにする事で、効率の良い時間の配分が可能となった。 課題：今後も引き続き、学校経営理念、方針等継続実践の見直しを図りたい。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織、計画 ・ 授業改善への取組 ・ 研究会への参加 	C	成果：学内の取り組みは活性化したように思われるが、東初協等外部への参加ができていない。 課題：積極的に外部研修会への参加を促したい。
	③保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応 	B	成果：全体での計画・実践ができない現状ではあるが、避難訓練等できることに取り組んだ。 課題：心配される自然災害に対し、あらゆる対策を講じ、児童の安全・安心を最大の目的とした取り組みを常に心がける。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用 	B	成果：オンライン授業への移行がスムーズであった。 課題：職員全員の取り組みを活性化させる。
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校公開の実施 ・ 学校情報の発信 ・ 小・中・高の連携 	B	成果：コロナ禍により、児童の活動が制約され、今年度も活動が不十分であった。 課題：鶴友会活動や英検対策講座の早い復活が望ましい。また、算数セミナーにももっと積極的かつ参加者の増加に向け、策を講じたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の周知 教育計画の作成 教育活動の評価 	B	<p>成果：生活時間帯もほぼ安定に向かっている。</p> <p>課題：学校における生活の安定と向上を目指したい。</p>
	⑦教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫改善 評価、評定の工夫 	B	<p>成果：オンラインによる授業参加が容易になり、濃厚接触者等への対応が可能となった。</p> <p>課題：安易な活用は避け、人間関係を築く上で大切な学校生活を送るよう導いていく。</p>
	⑧道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 授業の充実 児童会活動の活性化 	B	<p>成果：共通の時間を持つことはできなかったが、各担任が道徳を利用し、指導した。</p> <p>課題：日々の指導に活かせるよう、個々の意識向上が望ましい。</p>
	⑨蓼科学習	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫改善 	A	<p>成果：小学校の宿泊学習が少々変更を加え、全て復活した。</p> <p>課題：今後もそれぞれの見直しを重ね、より充実した蓼科学習を構築していく。</p>
	⑩児童指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対応 教育相談 	B	<p>成果：毎週実施される学年会での情報交換で、問題への早い対応が可能となっている。</p> <p>課題：様々な問題を抱えている児童が多くなっているようである。家庭との協力、およびスクールカウンセラーとの有効な連携がこれまで以上に必要な現状となっている。</p>
Ⅲ その他	⑪三位一体教育	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 児童理解 コミュニケーション 	A	<p>成果：家庭との連絡を密にすることで、問題を小さくうちに解決できた。</p> <p>課題：おうち時間が多く、子ども同士のコミュニケーション不足と、高学年のトラブルが増加している。</p>
	⑫英語教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 各学年の実践 英検対策講座 	B	<p>成果：教科書活用と家庭での音読練習が身に付いているのではないかとと思う。</p> <p>課題：具体的な効果と今後を見据えた指導方法の提示。低学年のA・S英語受講者が増加しているため、授業との連携を図ることで、効果を上げ、英検の結果につなげたい。</p>
	⑬防災教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 避難訓練等の実践 伝達システム 	B	<p>成果：目に見える成果が期待できる状況ではなかったが、防災を考える機会を常に設定し、安全安心な学校を目指したい。</p> <p>課題：全体として、しっかり動きを把握できる訓練の設定と本格的な実施計画の設定。自然災害への危機感を常に持ち、教師も児童も身を守る行動を身につける。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅲ その他	⑭会食指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：家庭の協力を得て、大きな事故もなく過ごしている。</p> <p>課題：高学年だけでなく、低学年も配膳の作業を児童にも手伝うことができる環境を整える。</p>
	⑮鶴友会活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の運営 ・放課後活動の運営 ・A Sの運営 	A	<p>成果：利用の増加傾向に対応し、今後も活用する。特に低学年への学習サポートの利用が多かった。</p> <p>課題：教室や対応者など、増加への環境設定が急務である。</p>

4 総合評価

- * 令和4年度もまた新型コロナウイルス感染拡大防止に様々な対策を講じる日々となった。新生活習慣によるマスクの着用と夏場の熱中症対策、楽しく和やかな雰囲気求めていた会食も黙食と、これまでの常識が常識でなくなり、子ども達の生活の変化が及ぼすストレスとなり得る所までに達しているのではないかと思われる。学年会においても個々の精神的なケアが必要とされるような報告も多々見受けられた。しかし、早期対応により大きな問題となるケースはなかったが、スクールカウンセラー対応を望む声が多く聞かれた。
- * 体験学習（蓼科・修学旅行）と児童が楽しみにしている学校行事（イベント）の復活がなされた。それに伴い、これまでの体系化された実績を改めて見直し、2年間を取り戻すための無理のない計画・企画を立案するよう、それぞれの教員が自覚を持って教育の実践に取り組むことができた。しかし、3年ぶりの蓼科学習であったため、レクリエーション的な要素を多く加味したが、教育課程に基づき、内容を整えていくことが課題である。

5 来年度の改善策

- * 「学習習慣」「基本的生活習慣」「家庭での学習習慣」の3つの確立に向け、学校全体で指導を重ね、落ち着いた安全で安心なげがのない学校生活を目指す。
- * コロナ禍で見送りとなっていた活動の再開とその方法など、中高との一貫という観点からも、検討事項をしっかりと把握し、実施できるよう努める。
- * 放課後の需要が年々増しているため、学校で16：30まで過ごすことができるよう、A・Sを充実させるとともに学習サポートの充実が必要である。
- * 内部進学者数増加に向け、算数セミナー（4・5・6年生希望制）の内容充実を努める。
- * 英検合格を目指し、英検対策講座を再び開講することと同時に、教科書（スマイル）の活用を今一度検討し、より英語力の底上げを図る。また、A・S「英語」の低学年受講生が増加しているため、A・Sとも連携してそれぞれの力を向上させたい。
- * 4年生から導入となる1人1台のiPadの活用をもっともっと活性化させるべく、教師の研修にも時間を費やすよう意識を高める。
- * 蓼科学習は、3年ぶりの実施であったため、レクリエーション的な要素を多く加味したが、今後は教育課程に基づいた内容へと整えていくことが課題である。
- * 外部研修会や個人研修を利用した講習への参加に積極的になるよう呼びかけ、それぞれのスキルを高めようとする意欲を喚起したい。その結果として、年間1人1回の研修を受けることを奨励する。

令和4年度 自己評価

川村幼稚園

1 教育目標

- 豊かな「こころ」
- のびやかな「からだ」
- 工夫する「あたま」

2 本年度の重点

- (1) 集団の中で伸びやかに
- (2) 始めの一步を緩やかに
- (3) 行事を通して健やかに

3 評価表

*評価基準 (A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神・教育方針 ・ 職務分掌組織 ・ 職員会議等の運営 	B	成果：それぞれの家庭の方針に添って、様々な点において対応してきた。 課題：今後も全園児が安全安心に通園できる環境が備わるよう努めたい。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織、計画 ・ 保育改善への取組 ・ 研修会への参加 	B	成果：個々の研修を深めてきた。 課題：研修会への参加とそこから学んだ事の共通理解を深めるよう工夫したい。
	③保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応 	B	成果：各校とともに、AED実技講習会を行った。 課題：体力増進のための食と運動による体づくりと安全安心な園生活を過ごすよう工夫する。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用 	A	成果：日々点検、及び対応をし、安全安心に努めた。 課題：今後も常に園児の活動の安全安心のため、細心の注意を払い、日々の保育を行う。
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育公開の実施 ・ 幼稚園情報の発信 ・ 幼・小・中・高の連携 	C	成果：小・中・高との連携は年齢的に難しいが、配信メールの同時手配など情報交換に努めた。 課題：姉妹関係を大切に情報収集を図る。
II 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育目標の周知 ・ 保育計画の作成 ・ 保育活動の評価 	B	成果：登園している園児に対し、安全安心な環境を提供し、より充実した園生活を目指した。 課題：常に園生活を楽しみ、成長を助長できるように援助する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
Ⅱ 関するもの 保育活動に	⑦保育指導	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 評価、評定の工夫	B	成果：元気に登園できるということを自信に、細かい事ではなく、できる事への援助を心がけた。 課題：集団としての行動を身につけることができるよう指導を要する。
Ⅲ その他	⑧三位一体の教育	・ 保護者との連携 ・ 幼児理解 ・ コミュニケーション	B	成果：家庭の方針に添うことを念頭におき、様々なコミュニケーションを大切に幼児とその保護者の満足度を高めてきた。 課題：より不安を少なく、幼稚園生活を送ることができるよう多くの選択肢を持つ園となるよう努める。
	⑨防災教育	・ 指導計画の立案 ・ 避難訓練等の実施 ・ 伝達システム	B	成果：毎月の避難訓練を実施し、小さいながらに自分の身を守ることを実践した。 課題：有事の際は、園児を守り確実に保護者へ引き渡すことが最優先となるため、教職員の体制を整え、訓練及び知識を蓄えるよう自覚を持たせる。
	⑩給食指導等	・ 安心安全への対応 ・ アレルギー対策 ・ 環境衛生の管理	A	成果：細かな対応をすることで、安全安心な食生活を保つことができた。 課題：黙食も緩和されてはきたが、今後も感染防止に力を入れたい。
	⑪保育後の活動等	・ 預かり保育の運営 ・ A Sの運営	B	成果：預かり保育はおやつなしで15：30までの感染予防策のもと行ったが、利用者は減少することなく運営できた。A・Sは積極的な参加が見られ、90%以上の園児が参加している。 課題：A・Sプールが開講できたが、少しでも多くの受講を目指したい。

4 総合評価

- * 今年も新型コロナウイルス感染症への対応を講じる日々ではあったが、園生活の時間帯はそのままに、各家庭の選択に任せる形での登園を行うことで、比較的自由に各々の思いに添った保育活動を行うことができた。
- * 新しい生活習慣も徐々に身につけ、園内での感染は最小限に抑えることができたと思われる。
- * 園庭の増築が終了し、植物を育てる楽しさを感じられたとともに、遊具の老朽化に伴い、新しい遊具を設置することになった。結果、様々な運動量につながり、園児の動きが活発化したようであった。
- * 令和4年度は、行事の復活ができ、年長組蓼科修養会、キンダーファミリーパーティー、鶴友祭など充実したものとなった。

5 来年度の改善策

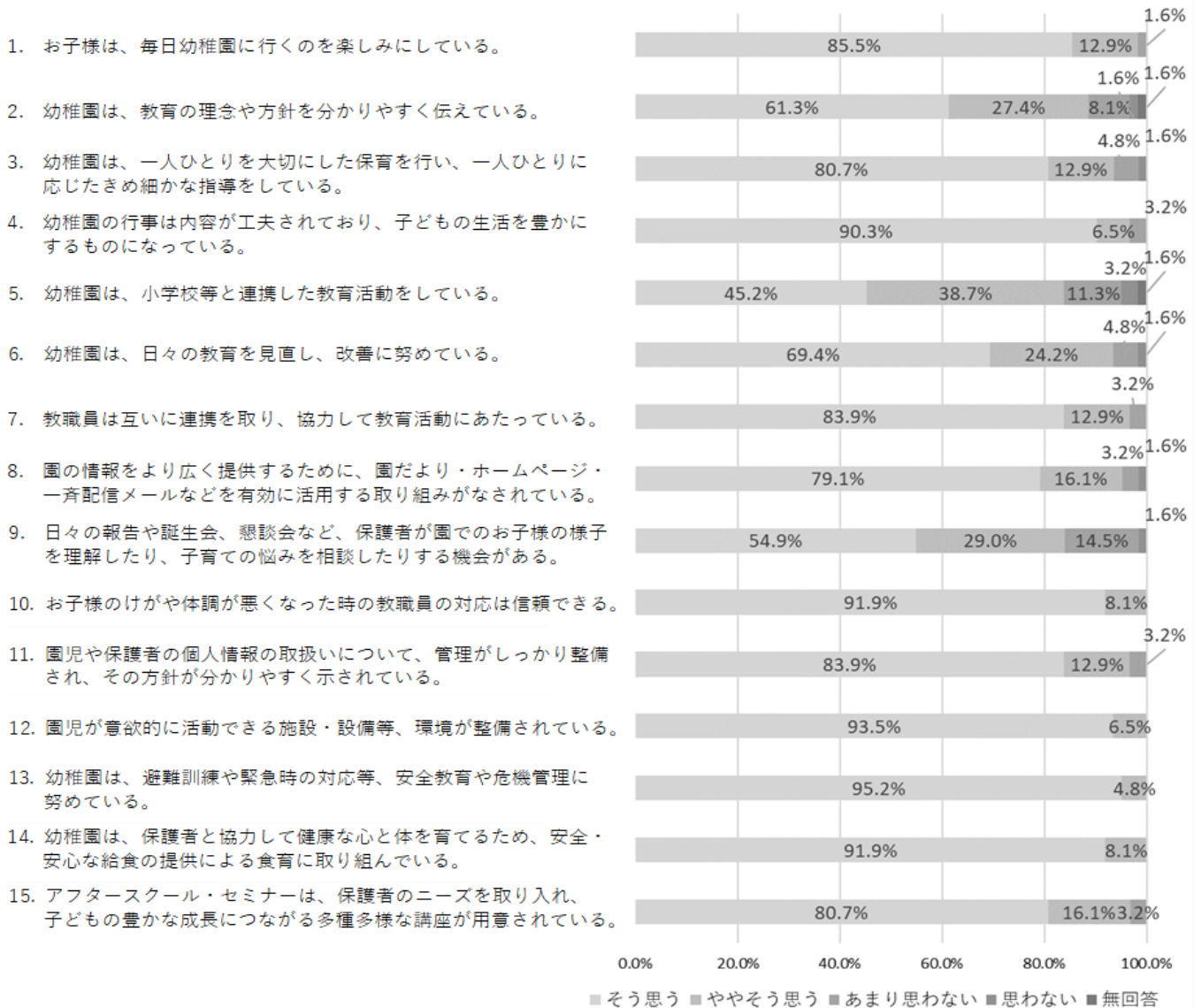
- * 保育終了後のウィズダムの利用者が増加傾向にあるため、保護者のニーズに添えるよう、水泳の復活などA・Sの見直しを行い、幼稚園での預かりをする方向で取り組む。
- * 園児数減少に伴い、男子の応募に対しても門戸を広げたものの、小学校内部進学を前提に先を見据えた対応が必要である。
- * 学年による学級数の変動もなるべくなくなるよう努めたい。

【保護者アンケート結果】

実施時期：令和4年12月9日（金）～14日（水）

回答数：62名（回答率94%）

評価： 4 そう思う 3 ややそう思う 2 あまり思わない 1 思わない



【学校関係者評価評価委員会の評価】

* 令和5年3月25日（土） 評議員会

評価は適切に行われ、保護者の満足を得ていると感じられる。

コロナ禍により園行事の規模の縮小、制限が多くなっているなかで、日常的に子どもの気持ちや家庭の方針に寄り添い、丁寧に受け入れて対応し、家庭との連携を大切に保育に取り組んできた姿勢が評価されたと推察できる。しかし、小学校との連携で行う行事や、保護者が見学・参加する行事等、通常の活動ができなかったため評価が低い項目もある。それについては、次年度において感染対策を踏まえながら、保護者が幼稚園に来園する機会や併設校との連携を強化する行事を行うなど、より一層充実した園の教育・運営に期待している。